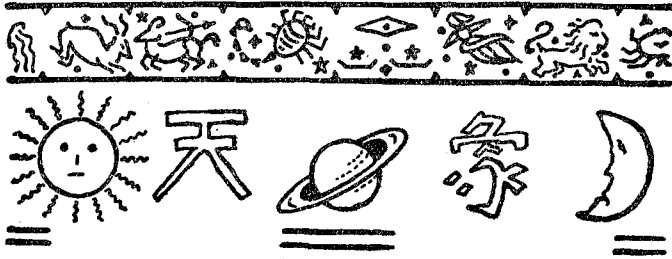


一九三三年
(昭和八年)



(花山天文臺)

I——太陽と月 (天空の明暗)

日付	太陽			月			月の相
	日出	(星座)	日没	月齢	月出	月没	
日	時分		時分	日	時分	時分	
1	6 27	(めづかめ)	5 53	4.1	8 41	(ひつじ) 23 0	●上弦 4日19時23分
6	6 21	♋	5 57	9.1	12 14	(ぎょしゃ) 2 47	
11	6 14	(う を)	6 1	14.1	17 35	(し し) 5 48	
16	6 7	♋	6 5	19.1	23 29	(てんびん) 8 24	○満月12日11時46分
21	6 0	♋	6 9	24.1	3 25	(い て) 13 29	●下弦19日 6時 5分
26	5 53	♋	6 13	29.1	5 50	(う を) 18 47	●新月26日12時20分
31	5 46	♋	6 17	4.5	8 25	(う し) 23 45	

II——遊 星 界

水星 月始めには夕方の星で7日5時東方離角(18°14′)光度0等、魚座春分点の近く。視直経約8″。23日17時内合。以後明方。

金星 明方東天にわずか見られる。外合に近く観望には不適。

火星 獅子座を逆行中。光度-0.7より-1.0迄視道経は2日、13″.87。日没と同時に昇るから終夜観望の好期。今回の接近では火星の北半球が夏で、天體望遠鏡で見ると下側に北極冠が小さく輝いてゐる。10センチでも模様のある事はわかる。

木星 獅子座にあり。赤い火星の東に並んで輝いてゐる。9日17時に對衝で光度負2等、視直徑41″.4、北半球(下)には太くて班の多い帯があり、南半球には淡くて細い帯が無数に見えてゐる。

土星 山羊座にある。月初の太陽より2時間弱早く登る。今後次第に観望しやすくなる。1日光度0.9等、本體の視直徑14″、環の長半徑34″.8、短半徑10″.3、北側が見えてゐる。

天王星 脊の星。魚座南部にあるが太陽に近く観測困難。光度6.2等。

海王星 獅子座α1星の南を逆行中。視直徑2″.6、光度7.7等。

冥王星 双子デルタ星の東。光度15等。

流星 1日——4日。獅子のγ 緩 | 18日頃。セフェエのβ 緩
15日頃。龍のη 速

三月の夜の天空

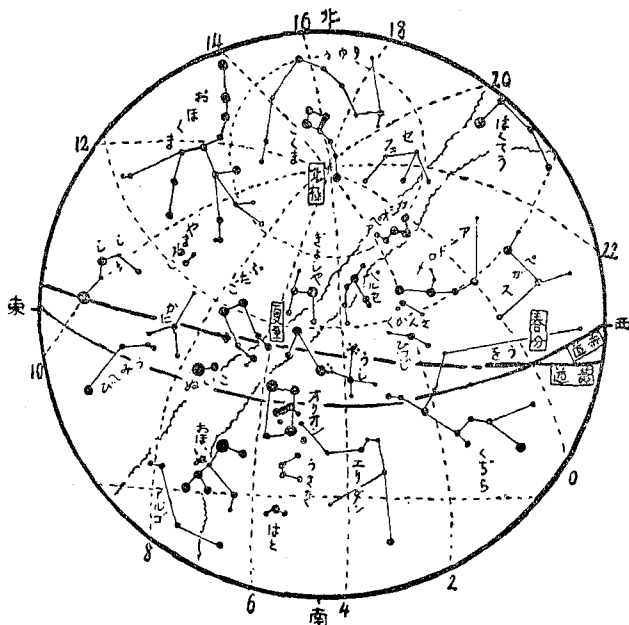
(恒星時 Sidereal Time 4時40分)

日本の中央部(京阪神地方)で

3月1日ならば午後6時. 15日ならば午後5時

東京は約15分早く, 福岡は約20分遅く現はる

但し時刻は日本中央標準時



III 早春三月の星座

夜も冷いながら何とはなしに温さの感じられる頃となる。

晝が次第に長くなるので、日が暮れてすぐ見える星々は、日毎にめだつて早く西へといそぐ。

銀河は、冬の南天を飾つてゐたオリオン大犬、双子をのせて、西へ西へと傾く。代つて東から昇つて来るものは春の先驅者の獅子で、昨年の暮には針の様な流星雨を、その口より吹き出してゐた。純白な乙女座も可愛らしい、烏の四邊形も、つゞいて霧を分けて昇つてくる。

北を振り反れば、北斗がはや高く中天にかゝつて、水のしたよりは、まきを座の一等星アクトウルスとなつて輝いてゐる。

何處となくほの白い銀河の中にひたつたカシオペアのWが、冬がれのままだつてゐる木立の中へおちてゆく。

ペルセウスや馭者、その南のプレヤデスも、長い旅をおへて、夜更けと共に次々と西に没し去る。